

知識探訪

多民族社会の横顔を読む

協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

国際ペンクラブとマレーシア華人作家

舩谷 鋭 (立教大学観光学部教授)



ドイツ時代、下野して間もないアンワル氏とシエン

世界文学の潮流の中で、ラテンアメリカなどのポストコロニアル文学、国際移民状況を映したディアスポラ文学に比べ、マレーシア発と言ってもよい、Sinophone (華語語系)文学

は、「台湾熱帯文学シリーズ」(人文書院)がそれに当たるが、日本であまり知られていない。旧イギリス植民地のコモンウェルス文学など英語文学の華語版だが、中国大陆で忌避されるのは「中華」でなく「離散」だからだろうか。

マレーシアからの台湾留学生らによる華語文学は、従来のアマチュア同人の域を超えた評価を受けるが、「台湾熱帯文学」に含まれない作家の一人にシルビア・シエン(ケン=しめすへんによんがしらに羽=素菜、シエン・スクライ)がいる。多文化環境で育った女性作家はマラヤ大学を卒業後、日本、ドイツへの留学を皮切りに、北大西洋条約機構(NATO)平和維持部隊で従軍通訳を経験し、現在は米国に在住。馬華文学最大の隔年イベント「星洲日報」の「花蹤文学賞」でしばしば名が挙がる。平和維持部隊への従軍エッセイは華語部門のベストセラーだった。

シエンは渡米まで国際ペンクラブ傘下の独立中文ペンクラブに所属し、マレー人と華人の民族摩擦を描いた。2001年設立の独立中文ペンクラブは、ノーベル平和賞受賞前の劉曉波(1955-2017)が会長を務めたこともあるアメリカの非営利組織(NPO)で、世界人権宣言60周年に起草された「零八憲章」にも含まれる言論と出版の自由、および華語文学の顕彰に努めた。

とはいえ、劉自身は六四天安門事件当時はコロンビア大学の客員研究者でありながら、大方の民主派中国

人知識人と逆に帰国を選択し、事件後に投獄、釈放されたのちも出国しなかった。中国ではほとんど知られない劉の国内中国人として初のノーベル平和賞受賞だが、世界で活動する中国の民主化運動家、チベット人やウイグル人活動家らがオスロに集結、連帯した「オスロの誓い」のきっかけとなった。

日本では国際連盟脱退後に島崎藤村を初代会長に日本ペンクラブが発足し、2012年には日本華文文学ペンクラブも設立されたが、東南アジアでは「S.E.A. Write Award」を主宰するタイ国ペンクラブに国際ペンクラブセンターがあり、ミャンマーペンクラブのマ・ディダが国際ペン理事に名を連ねる。

シエンは独立中文ペンクラブからアメリカペンクラブへ鞍替えしたが、ボルネオの熱帯雨林の先住民を描いた「秘密の花園」の中で、自分と同じマレーシアの非主流民族(とはいえ主流グループ、プミプトラ=マレー系と先住民の一角)であるプナン族について、環境保護活動家ブルーノ・マンサーとの関わりに触れた後、森林伐採による環境破壊の文脈でこう締めくくっている。

<あなたが一本一本手で植物を移し替えているのと同じくして、私は筆を執り、一語一語であなたが熱帯雨林を保護するのを助けよう。>

マレー半島生まれのシエンにとって、東マレーシアはあたかも本土から見た沖縄のような場所だ。「異郷」への帰国が国内民族問題から国際環境問題への変心を促したようだ。

<プロフィール> 1964年東京生まれ。早稲田大学助手を経て、現在、立教大学観光学部教授。マラヤ大学東アジア学科講師、南洋理工大学中国研究学科客員教授を歴任。専門はマレーシア華文学(馬華文学)。文学研究を通じ、東南アジア華人社会に広く人脈を持つ。